

新規事業評価調書

【道路事業】

一般県道 広野永福線

県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（新規）

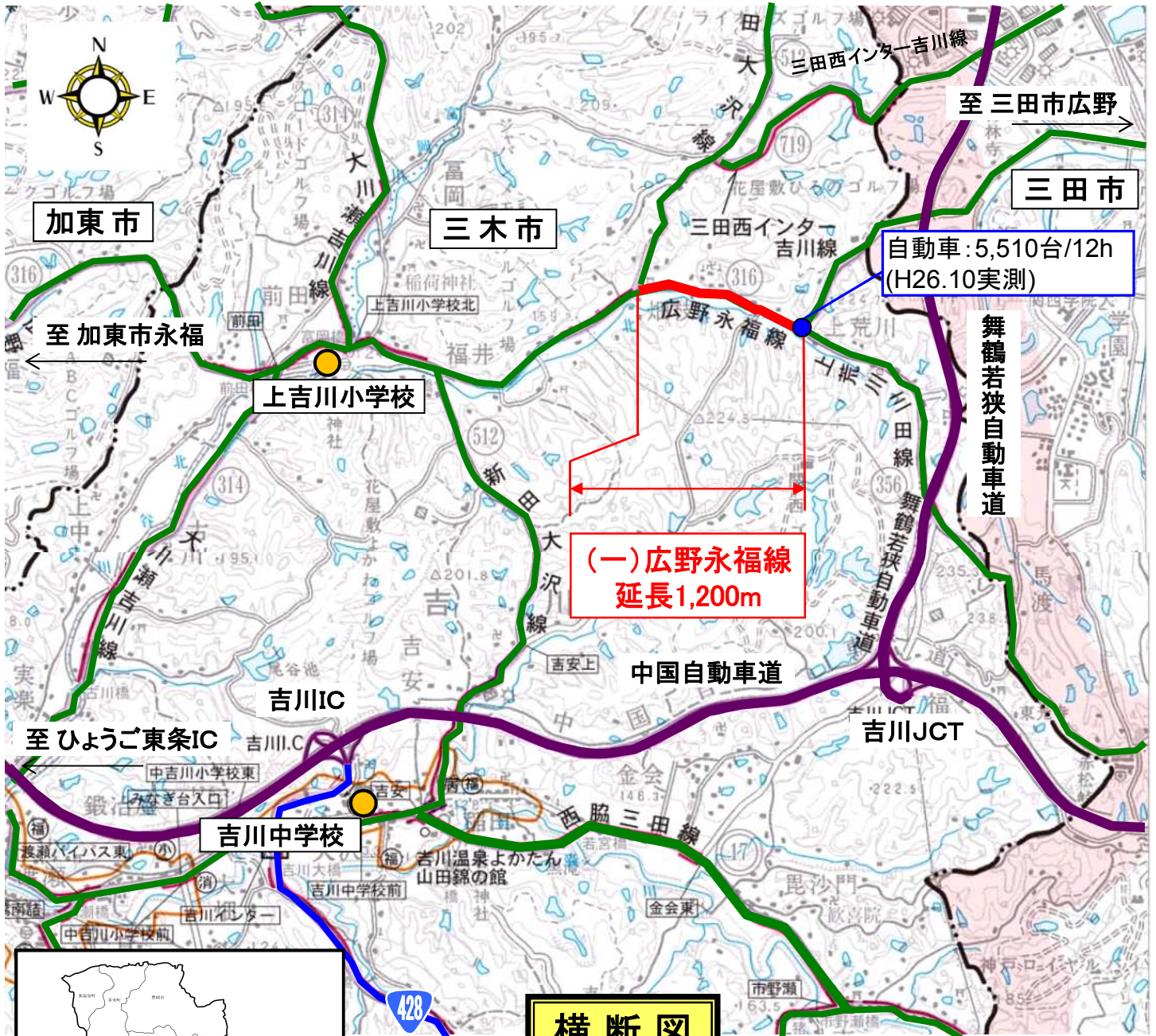
部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 一般県道 ^{ひろのえいふく} 広野永福線 [上荒川] ^{かみあらかわ}	三木市 ^{よかわ} 吉川町 ^{かみあらかわ} 上荒川～ ^{はたえだ} 畑枝	8.2 億円	2.1 億円	平成 29 年度	平成 33 年度

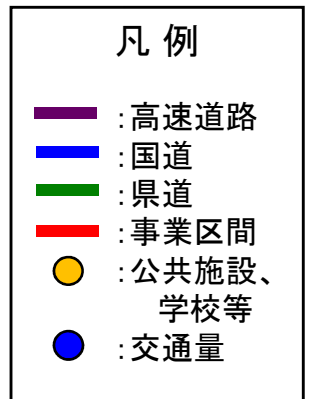
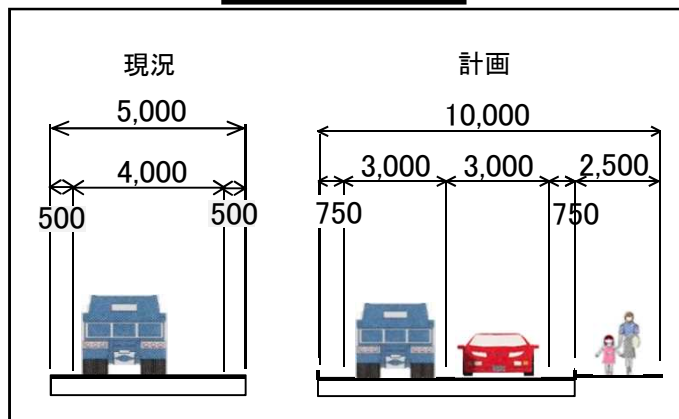
事業目的	事業内容
<p>本路線は、三田市広野から中国自動車道ひょうご東条 I C 北側の加東市永福に至る北播磨北東部と三田市を結ぶ東西幹線道路である。</p> <p>○円滑な交通の確保 集落内の幅員狭小な現道を拡幅することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な歩行者通行の確保 歩道の整備により、通学児童等の安全な通行を確保する。</p> <p>○二次救急医療機関へのアクセス強化 三木市北東部から三田市民病院（2次救急医療機関）へのアクセスを強化する。</p>	<p>【延長】 1,200m</p> <p>【構造規格】 第3種第3級</p> <p>【計画幅員】 2車線 片側歩道 2.5m 車道 6.0 m（全幅 10.0 m）</p> <p>【計画交通量】 6,600 台/日 (H42 予測)</p> <p>【現況交通量】 自動車：5,510 台/12h (H26 実測) 自転車：20 台/12h (H26 実測) 歩行者：8 人/12h (H26 実測)</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>

評価視点	評価結果の説明
(1) 必要性	<p>① 集落内を通過する現道は、幅員が狭小（最小車道幅員 4.0m、1 車線）で、大型車の離合が困難な状況であり、過去 5 箇年（H23～H27）に交通事故が 4 件発生している。このため、道路拡幅により安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>② 現道は、上吉川小学校の通学路にもなっているが、路肩が狭く危険である。このため、歩道を整備し、歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>③ 本区間は、三木市北東部から 2 次救急医療機関である三田市民病院へのアクセス道路となっている。このため、現道を 2 車線に拡幅することにより、救急搬送時間の短縮及び救急搬送時の安全を確保する。</p>
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比 B/C=4.4</p> <p>② 道路拡幅により、移動時間短縮、歩行者の安全確保及び交通事故の減少が図られる。</p> <p>③ 地元の上荒川地区及び畑枝地区から早期整備について要望がなされており、事業執行環境が整っている。</p>
(3) 環境適合性	<p>① 歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。</p>
(4) 優先性	<p>① 当該事業区間は未改良でボトルネック（前後改良済み）となっていることから、安全で円滑な交通の確保のため、早期整備が必要である。</p>

位置図

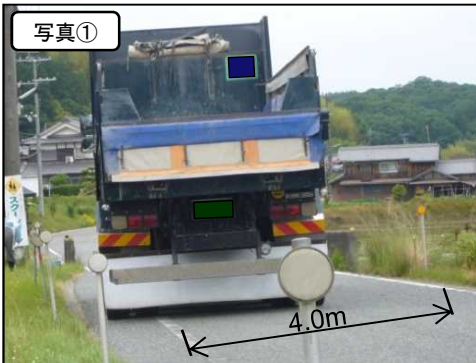
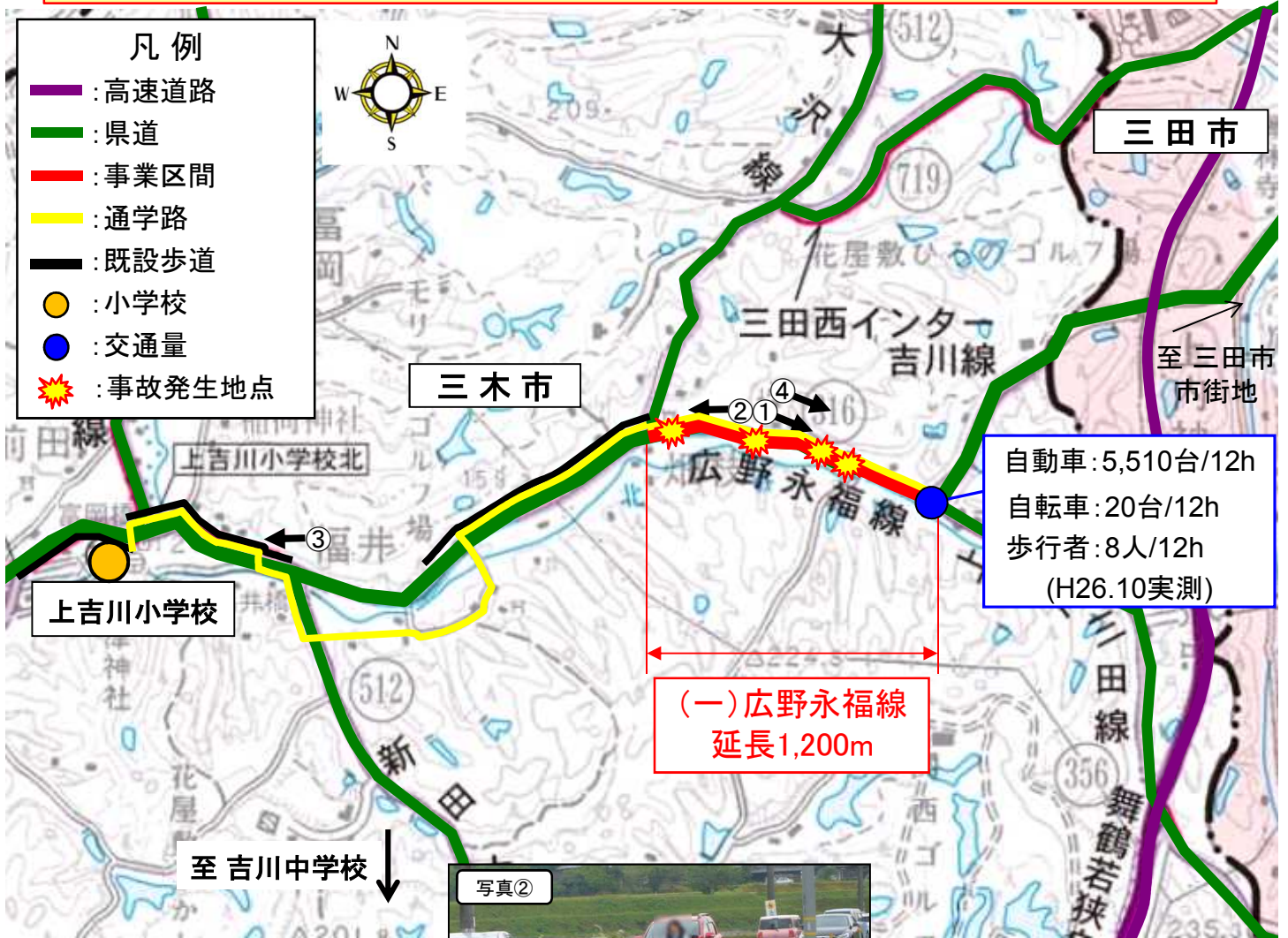


横断図



交通の円滑化と安全性の確保

- ・道路幅員狭小(最小車道幅員4.0m、1車線)のため、大型車のすれ違いが困難
- ・路肩が狭く、歩道が無い。通学生徒等の利用者や歩行者が危険
- ・現道区間において、交通事故が4件発生(過去5年間:H23~H27)



大型車が車道からはみ出して走行



幅員が狭く自転車が危険



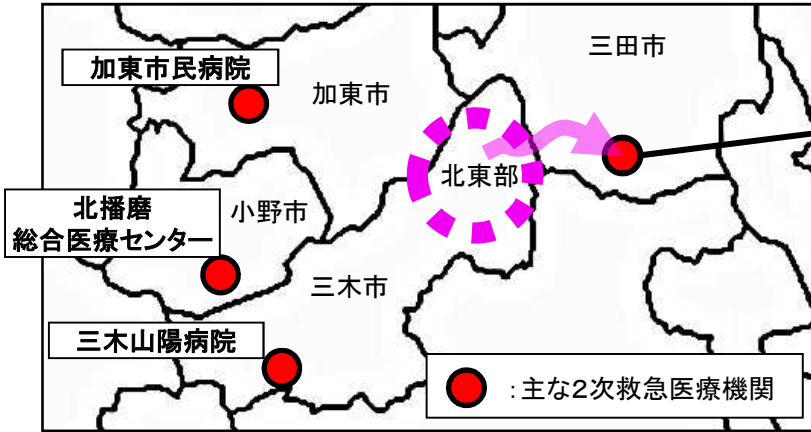
徒歩での通学が危険なため、保護者が車で送迎に対応



幅員が狭く車両の離合が困難

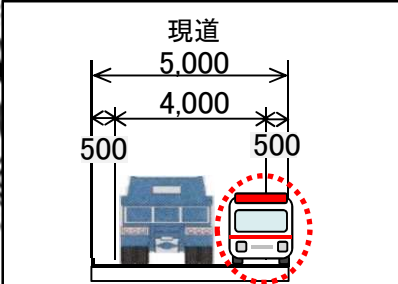
2次救急医療機関へのアクセス性向上

・現道は、三木市北東部から最も近い三田市民病院への救急搬送ルートとなっているが、幅員狭小(車道幅員4.0m)のため、救急搬送車両と大型車との離合が困難



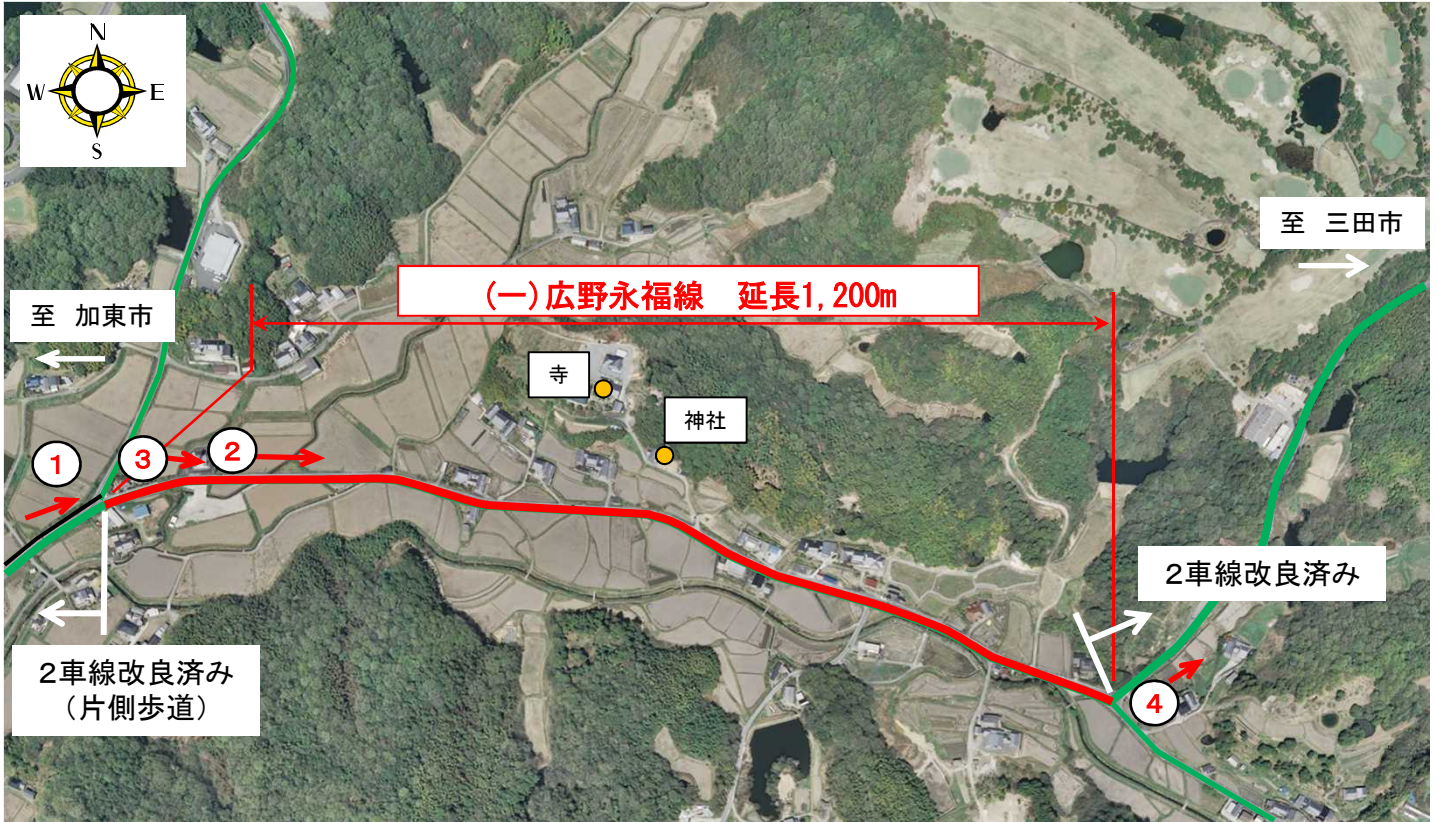
三田市民病院(2次救急医療機関)

三木市北東部から三田市民病院への搬送実績 **106回**【過去5年間:H23~H27】
(三木市消防本部搬送実績より)



幅員が狭く、車両の離合や緊急車両の追い越しが困難

周辺状況図



出典：国土地理院



凡例

—	: 県道
—	: 事業区間
—	: 既設歩道



1. スケジュール
当初計画

工種	年度				
	H29	H30	H31	H32	H33
調査・設計	■				
用地補償		■	■		
道路改良			■	■	■

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
道路	道路改築事業 主要地方道 神戸加東線	① 走行時間短縮便益	2,772	計画交通： 6,600台/日 (H42)	690	645	45	4.4
		② 走行経費減少便益	224					
		③ 交通事故減少便益	7					
		計	3,003					

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 上吉川小学校などの通学者の安全性の向上
- ② 円滑で安全な交通経路確保による緊急出動時の救急搬送体制の向上

道路街路事業の効果

対象事業：道路事業 広野永福線

(1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 三木市北東部からの2次救急医療機関(三田市民病院)へのアクセスの向上
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ 中国自動車道、舞鶴若狭自動車道不通時のリダンダンシー確保
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—
	平時	救急医療体制の支援	○ 三木市北東部からの2次救急医療機関(三田市民病院)へのアクセスの向上
		交通安全対策	○ 上吉川小学校など地元児童・生徒の安全な通行を確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 北播磨地域東部と三田地域とのアクセス性の向上	
	中心市街地の活性化	—	
	地域産業の活性化	—	
	観光支援	—	
	地域プロジェクト等の支援	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節点の機能の向上	○ 中国自動車道吉川ICや舞鶴若狭自動車道三田西ICへのアクセス向上による利便性の向上	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	—	